

青山学院高等部同窓会「会報発行検討委員会」報告

2025/03/19

昨今の電子化、ペーパーレス化、資源削減、郵便料金の値上げや会報編集作業負担の低減ニーズなどを
受け、当同窓会で 20 年来の懸案事項となっている「会報の電子化」への対応や会報発行スタイルの変更など
への対応が喫緊の課題となっている。今後、若年層の会費納入率の低下により会報発行費用が同窓会の収支
を圧迫することが予想される中、今後も会報の情報発信ツール、住所追跡ツールとしての機能をどのように維持
していくか検討した。



- 2024 年 12 月 2 日(月)に第 1 回検討委員会を開催し、資料にもとづいて現状における会報関連費用の
実態等を再確認した。
- まず、会報発送費(422 万円)と会報印刷費(171 万円)の合計額は、事業費支出と管理費支出の合計
(1161 万円)の 51%を占めている(2023 年度実績)。(資料:2 ページ)
- 同窓会実会員(2 万 9517 人)の年齢分布を見てみると、IT スキルに習熟していないことが想像される 6
0歳以上は 39%、70 歳以上は 25%を占めている。因みに会費納入者(7406 人)のうち 70 歳以上会
員数は 56%となっており、財務面で高齢者が同窓会を支えている構図となっている。(資料:3 ページ)
- 郵便料金については 2024 年 10 月 1 日から、定形郵便物で 84 円から 110 円、通常ハガキで 63 円か
ら 85 円へそれぞれ値上げされている。現在は銀座郵便局との契約により1通あたり 61.8 円で送付でき
ているが、今後はどうなるのか？(資料:4 ページ)
- 年1回の会報の郵便による送付は、会員の住所を追跡し会員名簿のメンテナンスと会費の徴求先を確保し
ていくうえで重要である。
- 校友会、各同窓会の電子化への取り組みを見てみると、校友会では広報紙「あなたと青山学院」のバックナ
ンバーを含めて電子ブックでの提供を始めており、No.33 以降最新号まで電子ブックで閲覧できる状態と
なっている(No.1 から No.32 までは PDF 版で表紙のみ提供)。(資料:5 ページ)
- また女子短期大学同窓会では HP の URL から最新号だけの閲覧が可能となっている。(資料:6 ページ)
- このほか、電気電子工学科同窓会では電子ブック作成ツール「ActiBook」を使用して、電子ブックでの提
供を行っている。ただし、ActiBook のフリープラン(無料)を利用しているため、最新号を含め電子ブック
での提供は直近の 3 号分のみ。(資料:7 ページ)
- こうした状況を受け、電子版(PDF/電子ブック版)を導入した場合の検証パターンとして次の 4 パターンを
たたき台として示し、討議した。

パターン 1: 年 1 回は従来通り紙媒体で送付。残り 1 回は電子版(PDF/電子ブック版)で発行(電子版
を発行したことはハガキで連絡)

パターン 2: ●●歳以上の会員へは従来通り、紙媒体で送付し、それ以外の会員に対してはハガキで電

子版を発行したことを連絡。

パターン 3: 会報の送付は従来の年 2 回から年 1 回に削減するとともに、電子版(PDF/電子ブック版)を HP に掲載。

パターン 4: 紙媒体の送付は「会費納入者のみ」(会員の約 25%)に限定して年 2 回発行し、それ以外の会員に対してはハガキで電子版を発行したことやイベントを連絡する。

(資料:8~9 ページ)

- 各委員からは
- ✓ 会員の住所判明率を維持するために年 1 回の郵送は必要。
- ✓ 年代が上の方からは「同窓会報は同窓会の命です」とおっしゃる方もいる。
- ✓ 会報でまず見るのが訃報欄という方もおり、電子化して HP に掲載する際には配慮が必要。

などの意見が出た。次回の検討委員会では今回の現状認識を踏まえ、例として示した 4 パターンを参考にどのようなパターンがあるかを検討することとした。



- 2024 年 12 月 9 日(月)に第 2 回検討委員会を開催した。
- まず、会報の電子ブック化については会報の発行回数に関係なく実施することができるので、すぐにでも HP に掲載する方向で検討する。電気電子工学科同窓会では前述の ActiBook のフリープランを利用している。
- ただし、会報の原稿を依頼する際には、執筆者へ HP にも掲載される旨を説明し、了解を得ておく必要がある。
- また訃報欄については、電子ブック版ではその部分をマスキングして掲載するなどの配慮が必要となる。
- 次に前回の検討会でたたき台として示した 4 パターンを踏まえ、各委員から提案を受けた。

パターン 5: 初年度は、会報の発行を従来の年 2 回から年 1 回に削減し、会員全員に配布する。また、電子ブック版の掲載を行う。これとは別にハガキによりイベントの告知などを年 1 回実施する。次年度以降は様子をみてるが、収支状況等を勘案すると将来的には全面電子ブック化もありうる。

パターン 6: 初年度は、会報の発行を従来の年 2 回から年 1 回に削減し、会員全員に配布する。また、電子ブック版の掲載を行う。これとは別にハガキによりイベントの告知などを年 1 回実施する(パターン 5 と同じ)。次年度以降は様子を見て検討するが、年代で切り分けて IT スキルに不慣れな年代には紙媒体での会報の発送の継続をする。